

2022 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	田中 裕成
研究テーマ	新出梵文ポタラ宮俱舎頌写本の研究
研究概要	新出梵文ポタラ宮俱舎頌写本の校訂作業と諸訳との比較検討を行い、既存の梵本との異読箇所を抽出し、異読が発生した思想的背景を探る。本研究により『俱舎頌』は改変されたテキストであることを明らかにし、等閑視されてきた『真諦訳俱舎論』の重要性を明らかにしたい。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>本研究では『俱舎頌』諸本の異読には思想的価値が存在するとの着想のもと、新出梵文ポタラ宮俱舎頌写本の校訂作業と『俱舎頌』諸本の対照作業を行っている。本年度の研究では、新偈の一つである AKK. V. 42-2 の研究を行った。AKK. V. 42-1 (本来の 42 偈) は「所有物を八つとする立場 (八纏説)」から九結の中に嫉と慳のみ数えられる二つの理由を説明する。一方で、AKK. V. 42-2 (追加された偈) はヴァイパーシカによる「所有物を十とする立場 (十纏説)」の立場から三つの理由を説明する。また、それらと異なり、玄奘訳『俱舎論』と『順正理論』は四つの理由を提示する。これらの対比から、『俱舎頌』諸本のテキストはそれぞれ異なり、特に真諦と玄奘の差異は異なる情報に基づいていることが明らかとなった。さらに、称友の注釈に含まれる情報により、真諦の三因説が最も古く、ついで衆賢の一因説があることが明らかとなった。玄奘訳はこれら両者を組み合わせた四因説が採用するが、安慧釈にも四因説が確認されることから玄奘の勝手な改変ではない。本研究により AKBh に関係するテキストの情報の新古が明らかとなり、AKBh の内容は常に最新の教義にアップデートされていることも明らかとなった。この点については、「新出俱舎頌写本に見いだせれる異読と新偈について」として、日本印度学仏教学会にて発表を行い、その内容をまとめ、投稿を行った。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>[論文等]</p> <p>単「『ポタラ宮俱舎頌』新出偈 V. 42-2 — 『俱舎論』関係資料が保持する情報の新古について—」『印度學佛教學研究』 71 巻 1 号 pp. 376-381, 日本印度学仏教学会 (2022 年 12 月、査読有) など</p>
3. 競争的資金等への応募と採択	<p>2021 年度科学研究費 (研究活動スタート支援)「新出ポタラ宮俱舎頌写本と漢訳等諸本の比較研究」(採択期間 2021 年 10 月 1 日~2023 年 3 月 31 日)</p> <p>2022 年度科学研究費 (若手研究)「俱舎頌諸本の比較研究に基づく新出ポタラ宮俱舎頌写本の校訂研究」(採択期間 2022 年 4 月 1 日~2028 年 3 月 31 日)</p>
4. 今後の課題	<p>現時点で報告した以外にも大小様々な異読が『俱舎頌』に存在する。今年度の研究成果に基づき、他の異読についても精査する必要がある。</p>